長崎県の医師確保・養成の状況

▫ 医師養成のための施策

①しまの勤務医師修学資金貸与(1970年創設)

修学資金を貸与し、離島・へき地の公立医療機関に勤務する医師を養成する。
貸与期間の2倍に相当する期間が義務(うち離島・へき地は1／2)。
年間3～4人に貸与。貸与総数：124名、現在勤務医師数：26名

②自治医科大での養成(1972年開学)

自治医科大において、離島・へき地の公立医療機関に勤務する医師を養成する。
義務期間は9年間（うち離島・へき地は1／2)。
年間2(～3)人が入学。入学総数：81名、現在勤務医師数：32名

▫ 医師確保のための施策

①しまの医療機関運営費補助

離島の市町村立病院・診療所の常勤医師給与の一部を助成
13市町村18医師分(上限180万円／年・人)。

②離島・へき地医療支援センターによる医師募集派遣事業

③自治体病院等開設者協議会による医師の斡旋

長崎県離島・へき地医療支援センター

県が関与する医師募集窓口

・長崎県離島・へき地医療支援センター（2004.4～）

【概　要】**離島の公立診療所**で勤務していただく**医師を募集・派遣**。

【組　織】長崎県福祉保健部健康政策課内の班。

【連絡先】長崎県離島・へき地医療支援センター（Tel：0957-48-6950）

【担当者】山西幹夫センター長（内科医師）、他の職員

・長崎県離島医療圏組合（1968.4～）

【概　要】**離島の拠点病院**で勤務していただく**医師を募集・採用**。

【組　織】1県3市1町からなる特別地方公共団体（一部事務組合）

9つの離島医療圏組合病院の経営

離島医療医師ｾﾝﾀｰ事業（養成医師をﾌﾟｰﾙし、離島の病院・診療所の要請により派遣）

【連絡先】長崎県離島医療圏組合事務局［県庁内］（Tel：095-825-2255）

【担当者】谷口和登志係長、他の職員

・長崎県自治体病院等開設者協議会（1971.10～）

【概　要】**市町村立の病院・診療所**で勤務していただく**医師を募集・斡旋**。

【組　織】1県8市23町村2組合からなる協議会。

【連絡先】自治体病院等開設者協議会事務局［離島・へき地医療支援ｾﾝﾀｰ内］（Tel：0957-48-6950）

【担当者】村岡俊毅事務局長、他の職員

寄付講座『長崎大学 離島・へき地医療学講座』

主なねらい

① 離島・へき地をプライマリケアのトレーニング 及び **臨床疫学研究** 等の
フィールドとしてアピールしていく

② 大学教官に離島・へき地医療の重要性を再認識してもらい、
離島・へき地医療スタッフの養成を大学教育の重点課題
の一つにしてもらう

③ **離島・へき地で勤務する医師が**、希望時に
臨床研究に参加し、**学位を取得できる環境を整える**

概 要

① 設置時期： 2004年5月1日～2009年3月31日（**5年間**）

② 設置機関： 長崎大学大学院 **医歯薬学総合研究科**

③ 寄付内容： 総額 **2億500万**（県 1億400万円、下五島1市5町 1億100万円）

④ 研究拠点： 五島中央病院内 に「**長崎大学離島医療研究所**」を設置

⑤ スタッフ： 教授（前総合診療部助教授）、助手（自治医大卒）、研究補助員

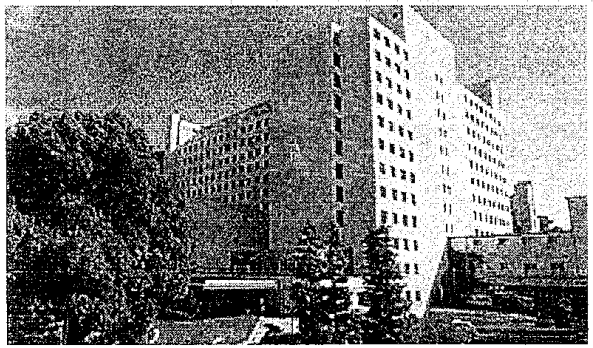
主な研究テーマ

地域医療専門家養成プログラムの研究開発、地域医療情報システムの研究開発、
離島・へき地における健康・疾病に関する疫学的調査研究 等

長崎県離島・へき地医療支援センター

寄附講座「離島・へき地医療学講座」

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科
「離島・へき地医療学講座」



寄附

長崎県
旧下五島地区
1市5町
・福江市
・富江町
・岐宿町
・三井楽町
・奈留町
・玉之浦町

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科
島・へき地医療学講座（寄附講座）開設式

「成果は世界に発信」

離島・へき地医療学講座

長大 五島中央病院で開設式

【五島】長崎大（齋藤寛学長）は二十七日、福江市の五島中央病院で、同大大学院医歯薬学総合研究科「離島・へき地医療学講座」の開設式をした。

講座は、長崎大が同病院内に設けた「離島医療研究所」を開設した。福江市の五島中央病院内に活動拠点の「離島医療研究所」を設け、医学生に臨床研修の場を提供。離島医療の専門家育成システムや住民のニーズに即した医療の研究開発などを進める。

同講座は、五島市、福江市、五島市五町が費用を提供する。

共同、総額一億五百万円を拠出する寄付講座。同大が今年四月に法人化したことで、自治体の寄付が受けられるようになった。

同講座は、離島医療の専門家を養成する医学教育システムの開発などが柱。医学部五学生が、九月から順次一グループ七～八人の十四グループに分かれ、同研究所などで一週間研修する。島の病院や診療所、保健所などに出向き、離島医療の実情を学ぶ。

このほか、▽両像伝送システムなどIT（情報技術）を活用した効果的な医療システムの開発▽五島地域で感染症が高い成人T細胞白血病などの医療の専門家を養成する教育システムの開発や、疫学的な調査研究を進める。県と下五島一市五町の寄付講座で、五年間で総額二億五百万円を拠出する。

式で谷山紘太郎・同大医療学長は「人を大切にする医学教育がこの講座開設で可能になる」と述べた。

同講座担当の前田隆浩教授は「離島の人々のニーズを選択し、研究に取り組んでいきたい」と決意を語った。

長崎大が福江に研究所

離島・へき地医療学講座

専門家育成へ システム開発

くらし社会

齋藤寛学長）は、同大大学院医歯薬学総合研究科に「離島・へき地医療学講座」を開設した。福江市の五島中央病院内に活動拠点の「離島医療研究所」を設け、医学生に臨床研修の場を提供。離島医療の専門家育成システムや住民のニーズに即した医療の研究開発などを進める。

五島、福江、五島市五町が費用を提供する。

共同、総額一億五百万円を拠出する寄付講座。同大が今年四月に法人化したことで、自治体の寄付が受けられるようになった。

同講座は、離島医療の専門家を養成する医学教育システムの開発などが柱。医学部五学生が、九月から順次一グループ七～八人の十四グループに分かれ、同研究所などで一週間研修する。島の病院や診療所、保健所などに出向き、離島医療の実情を学ぶ。

このほか、▽両像伝送システムなどIT（情報技術）を活用した効果的な医療システムの開発▽五島地域で感染症が高い成人T細胞白血病などの

「離島・へき地医療学講座」の拠点となる離島医療研究所＝福江市玉之浦町、五島中央病院内

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科
「離島・へき地医療学講座」

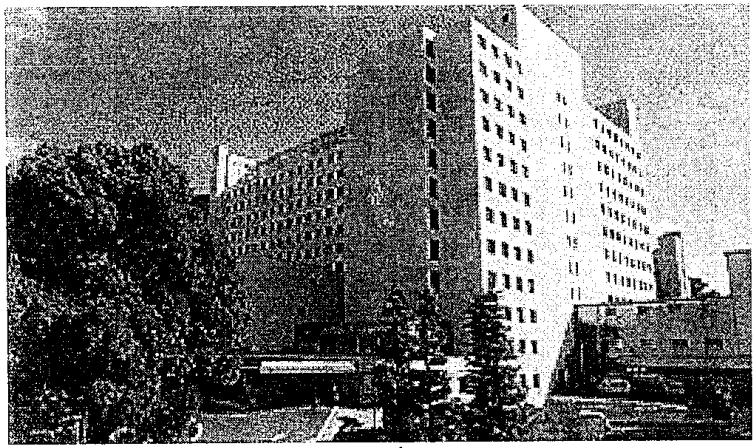
平成16年
5月1日誕生

長崎県離島・へき地医療支援センター

研究・教育体制

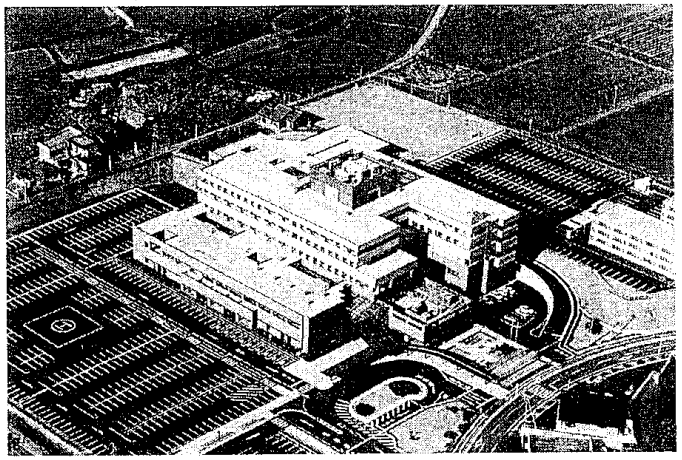
長崎大学大学院
医歯薬学総合研究科

「離島・へき地医療学講座」



長崎県離島医療圏組合
五島中央病院

「離島医療研究所」



離島・へき地の研究教育拠点

助手、研究補佐員が常駐

長崎県、旧下五島地区1市5町

寄附講座における活動計画（計画段階案）

1. 医療教育研究（地域医療専門家養成を含む）
   ①医学教育
   ②大学院生教育
   ③研修医教育
   ④コメディカル教育（保健学科教育、歯学、薬学など）
2. 効果的地域医療情報システムの開発研究
   ①医療支援システム研究
   ②患者サポートシステム研究
3. 健康、疾病に関する疫学調査研究
   ①成人T細胞白血病発症に関する研究
   ②動脈硬化リスク遺伝子研究
4. 高齢化対策長寿研究
5. 歯科分野における研究（う歯予防など）
6. 離島における医薬品の供給実態調査研究

研究活動

1. 医学教育研究

1) 離島医療・保健実習の効果
2) 離島医療に対する意識変容の調査

2. 医・歯・薬学統合研究

1) 動脈硬化と生活習慣
2) 成人T細胞白血病、HTLV-1
3) 口腔内細菌と歯周病
4) 地域のニーズに合った研究

3. 地域診断

離島医療・保健実習

「地域と連携した実践型医学教育プログラム」
～現代版「赤ひげ」の育成を目指した
長崎県五島列島における包括的保健・全人的医療教育の実践～

文部科学省平成16年度
「特色ある大学教育支援プログラム」

ヒアリング：平成16年7月14日（東京）

平成16年度の応募件数：534件
採択件数：58件（約10.9%）

離島医療・保健実習

対　　象：長崎大学医学部5年次生（平成16年度96名全員）
期　　間：平成16年9月～平成17年3月
実施場所：五島市内の医療・保健・福祉施設

五島中央病院、富江病院、奈留病院
山内診療所、三井楽診療所、玉之浦診療所
五島保健所、五島市健康政策課（保健センター）
五島市社会福祉協議会福江支所

グループ：1グループ6～7名の14グループ
スケジュール：
1グループずつ月～金の5日間五島へ滞在
1グループを2班に分けてローテート実習を行う
第1班が保健→医療→福祉、第2班が医療→保健→福祉
医療については基幹病院（五島中央病院）と前線医療施設での実習を行う

アンケート項目の抜粋

【基本事項】
1.五島に行ったことがありますか
2.五島は遠いと感じましたか

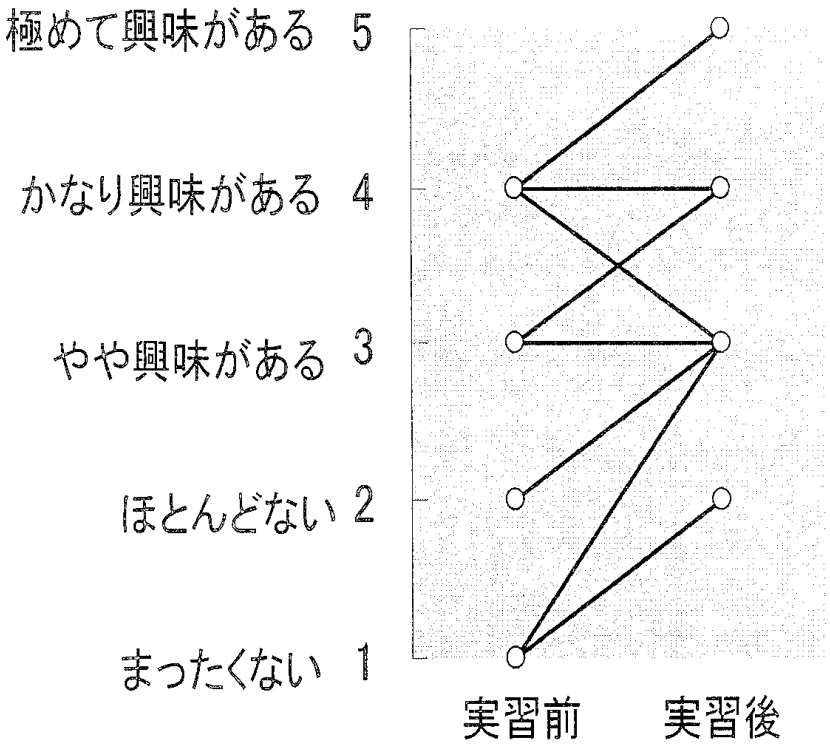
【将来について】
1.専門医と総合医のどちらになりたいですか
2.離島に定着して働きたいと思いますか

【離島医療について】
1.離島医療に興味がありますか
2.離島医療にやり甲斐を感じますか
3.将来、離島で勤務したいと思いますか
4.勤務するなら、どのくらいの期間勤務したいと思いますか
5.離島勤務で不安を感じることは何ですか

【五島実習について】
1.実習は面白かったですか
2.医師としての今後の方向性の参考となりましたか

アンケート結果5

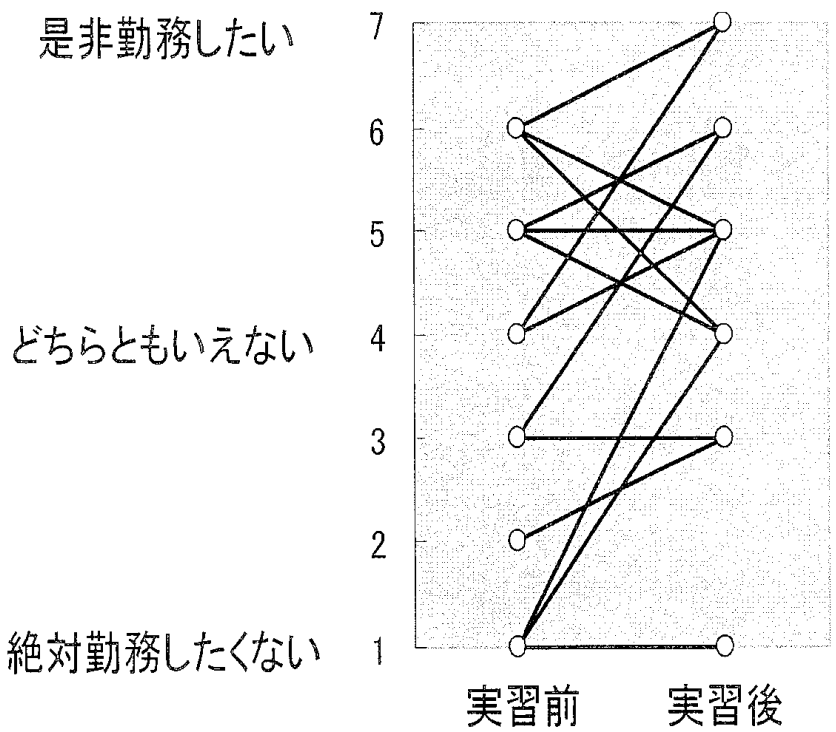
離島医療に興味がありますか？



	実習前	実習後
Average	2.8	3.5
S.E.	0.21	0.15
t-test	P<0.001	

(n=21)

将来離島で勤務したいと思いますか？

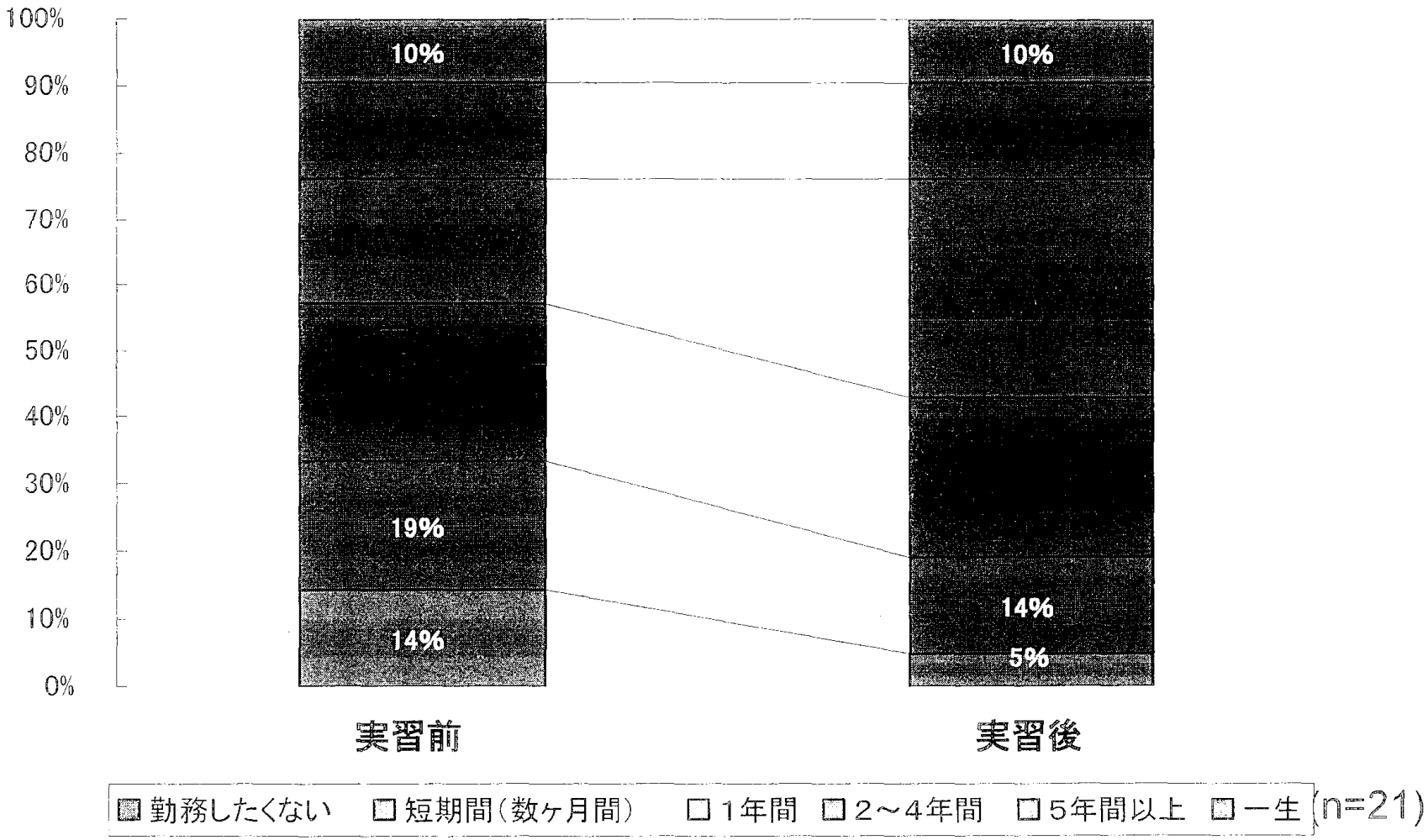


	実習前	実習後
Average	4.0	4.8
S.E.	0.35	0.31
t-test	P<0.05	

(n=21)

アンケート結果6

離島に勤務するなら、どのくらいの期間勤務したいと思いますか？



H17.3.27 長崎新聞

長大生が離島医療学ぶ

目指せ現代版「赤ひげ」医師

14班96人の実習終了

【五島】小説の主人公「赤ひげ」のような人間味あふれる医師の育成を目指し、長崎大医学部が本年度から五島市内で取り組んだ離島医療・保健実習が二十五日終了。医学生計十四班九十六人が昨年九月から順次来島し、病院、診療所、保健所などで離島医療の現実を学んだ。

同実習は、本年度に新設した医学科五年生の必修カリキュラムで、将来の離島医療を担う人材確保の狙いもある。文部科学省が資金を重点配分する「特色ある大学教育支援プログラム」に採択され、全国的な注目を集めている。

同大大学院医歯薬学総合研究科に開設した「離島・へき地医療学講座」の活動拠点、離島医療研究所（五島中央病院内）が実習に対応。学生は一班（六―七人）ごとに一週間かけ、診察の見学や訪問診療への同行、予防接種の問診や診察の補助、福祉施設利用者との交流などを通し、医療、福祉、保健の連携などに認識を深めた。

最後のグループ第十四班は二十四日、四人が奈留病院などで実習。三人は玉之浦町中須生活館で、軽度精神障害者やボランティア「仲良し会あじさい」（道下妙永会長）と交流した。障害者の一人は「ゆっくり話を聞いてくれる先生になって」などと願いを託した。

学生の岩永香織さん（二四）は「患者を体だけでなく総合的に診ることが医療だと感じた」。村田岳哉さん（三〇）は「離島医療は十分な技術が必要。一人前のドクターになった上で離島に赴任するのは『あり』です」と話した。

新年度からは、六年生の高次臨床実習で「離島・地域医療」が新たに実習診療科（選択）の一つとなり、本年度五島での実習を経験した学生のうち数人が五島中央病院を拠点に、より高度な内容を学ぶ。五年生の離島実習も九月から始まる。

離島医療研究所長の前田隆浩教授は「実習後は離島へのネガティブなイメージが払しょくされ、進路選択の幅を広げた。五島でのハイレベルな高次臨床実習の実施で、離島医療への学生の認識は一層深まる」と期待する。

地域のボランティアらと意見交換する医学生（中央）＝五島市玉之浦町中須生活館